

## 平成 27 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 27 年 7 月 27 日

学 長 殿

所属部局・職名 経済経営学類 特任准教授

申 請 者 名 林 薫平

助成事業の区分 (該当するものに○印)	○研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学会等</span> ) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・その他の特別事業)
事業名	日本有機農業学会 公開フォーラム 原発事故から5年、有機農業復興の現状と課題
事業実施期間	平成27年6月27日 ~ 平成27年6月27日
成果の概要	<p>日本有機農業学会、本学うつくしまふくしま未来支援センター、本県有機農業ネットワーク及び新潟大学の共同開催により、原発事故から5年目を迎えた現時点での、本県の農業復興の状況と課題を考える集会をもった。とくに、土や生き物や自然環境への深い理解をもち、地域資源の循環利用や消費者との産直交流をベースにしてきた有機農業者に焦点を当てた。県内外の農業関係者や研究者約50名の参加を得て活発な議論が行われた。</p> <p>第一部では、本学うつくしまふくしま未来支援センターの小松知未特任准教授から、本県農業全体の復興状況と、農産物の検査や流通の現状についての基調報告が行われた。第二部では、4名の自然科学系の研究者（新潟大・原田直樹准教授「水稲、大豆、桑」、同・吉川夏樹准教授「農業用水由来のCsとイネへの影響」、横浜国大・金子信博教授「森林土壌の汚染対策と森林利用」、本学・石井秀樹特任准教授「土壌スクリーニングー全ては汚染実態の把握から」）から個別報告が行われた。</p> <p>第三部では、本学の牧野友紀地域コーディネーターから「ふくしま未来学」の南相馬での活動報告、新潟大・野中昌法教授から、地域の農業者との共同による農業復興調査の経過報告、二本松市の農業者・大内督氏から、「ウチらはここで農業を続けると決めました」の報告が行われた。第四部では、茨城大学名誉教授の中島紀一氏を座長とし、大内氏に、農業者二名のパネリスト（南相馬市・根本洗一氏、二本松市・菅野瑞穂氏）を加えて、第三部までの全体を受け、会場参加者も交えた総合討論が行われた。パネリストからは、それぞれの農業の現場での実践内容が語られ、会場からは、これからの支援の課題、研究課題、政策要求の課題などが提起され、今後も継続して議論や検討を続け、大局観をもちつつ地域に根を張ったそれぞれの立場での活動が重要であると結ばれた。</p>